自動車に安全運転宣言ステッカー

「わたしたちは事故を起こしません」――。運転が本業の運送業の場合、トラックなどに安全運転宣言車といったステッカーを貼っているケースは珍しくないが、応用地質は建設産業であまり例がないこうした取り組みを全社で始めた。

同社が使っている自動車は、リースとレンタカーを合わせると全国で約350―400台にのぼる。運転する可能性がある社員約600人に、安全運転宣言、会社名、運転者名を明記した磁気式ステッカーを5月に配布、6月から自動車の左右ドア、バックの計3カ所に貼っている＝写真。

応用地質 認められ信頼される企業に

間宮清社長が今年2月末、事業所回りで九州に行った際、九州支社が同月から独自に実施しているのを目にして、「良いことだから全社でやろう」と決断した。

しかし、導入に対して反対意見がなかったわけではない。だれが、いつ、どこの発注者に行っていたのかがステッカーで一目瞭然のため、「他社に動きが筒抜けになる」。安全宣言をしておきながら万一事故を起こせば、「かえってマイナスのイメージになる」など。

これに対し、「物事はメリットがあれば必ずデメリットもある。デメリットがあるからと消極的では何もできない」「安全・安心を経営理念に掲げている企業としては当然の取り組み」などと説得した。

ステッカーを貼る意義として、①事故（自己）を律する②社会ニーズにこたえる③信頼される企業を目指す――の3点を挙げ、特に自分を律することを最重要課題に位置付けている。